

学校教育目標		校訓「みずから学び みずから鍛え みんなと生きる」を体現する生徒の育成							
重点努力事項		(1)質の高い授業を実践することによって基礎・基本の徹底と思考力・判断力・表現力の育成をバランスよく図り、自ら課題意識を持って友と高め合うことのできる生徒を育成する。 (2)あらゆる教育活動を通して辛抱・我慢できる心、困難に打ち勝つことのできる精神力、自己コントロールできる力を鍛え、強くたくましい心と体を育成する。 (3)人のために自分には何ができるかを考え行動することが、最終的に自己理解や自分を大切にすることにつながることを実感させ、将来の進路選択への展望を持たせる。							
分掌重点目標		様々な体験を通し、「自治的集団」を育む。							
H26年度 成果と課題 Do&Check	H27年度への提言 Action	分掌がめざす生徒の姿	分掌目標 Plan	主な活動 Do	活動へ向けての努力事項 Do	到達目標	評価基準(Check)	達成確認 Do&Check	関係者への報告 Action
アンケート 数値等は全 体的に基準 としていた 数値よりも 高い結果が 出ている。 この事より、 数値的な面 でみれば、 特活部の活 動としては 大きな問題 はない。しか し、実際の 生徒の動き やクラスそ れぞれの様 子を見ると、 まだまだ自 治的な集団 にはなれて おらず、受 け身的な学 校生活を送 っている生 徒も多い。 クラスの中 でのお互 いの信頼関 係、仲間意 識を高め、 自治的な集 団の育成に さらに近づ けていける 取り組みを 来年度にお こなしてい く。	・生徒会活動について、実行力を育てる必要がある。 ・計画したものを100%遂行し、生徒自身に満足感と自己有用感を持たせることが大切である。 ・JRC活動については、年度当初から全校生徒にボランティアについての意義をしっかりと伝え、自発的にボランティア活動に参加することができる環境を整えていく。 ・縦割り活動は、来年度一つのグループは1、3年のみで。(再来年度以降新入生3クラス予定のため) ・短学活で行うふれあいタイムの内容を再検討し、仲間づくり活動を活性化させる。 ・月に一回の部活動については、部長会を実施する。 ・部長長を任命する。 ・終学活後5分以内に部活動へ！活動をする。	◎◎◎◎◎◎◎◎ 自感一人自 ら謝人互に分 課の得意喜の ま 題気もをん考 し 設持活認でえ さ、 定ち躍めもを を持て合持や 行ちきいいち さう こ自生望い、主 と分徒まし、体 がの思いいの きい言生役楽 徒葉や行動を 表現で表し、 現さる生徒の に 足 人 の た め に 行 動 で き る 生 徒	『自治的集団』の育成	目標に向かって課題設定できる活動	○生徒会活動・正副室長会・委員会活動を利用したリーダー育成 ・より良い学校環境にするための課題を見つける力を育てる。 ○リーダーを支えるフォロアーの育成 ○体育的行事・文化祭行事・仲間作り活動を利用したたくましさの育成 ・一人でも活躍できる力を育てる ・目標に向けあきらめないで努力する気持ちを育てる。 ・失敗を恐れない姿勢 ○QUによる検証 ○生徒会・委員会(応援団)活動推進係 ○リーダー正副室長育成係 ○体育的行事への意欲的参加係	・学校・学級が活性化する。 ・目標に対する課題設定を行うことができる。 ・リーダーを支えるフォロアーがクラスに半分以上いる。 ・各場面において、誰かと一緒にでなくても行動することができる。 ・全教職員がQ-U結果を共通認識できる。	(生)私は、各委員会の活動によって学級が活性化したと感じている。(80%) (教)応援団活動は充実している(85%) (生)私は、委員会や係の仕事などでがんばる友だちの手伝いなどをして支えている。(80%) (生)私は、学校行事を通して自分の役割を果たすことができた。(80%) (生)私は、学校行事を通して人との関わりや物事の考え方などについて学ぶことができた。(80%) (教)一人でがんばる場面、一人で活躍する場面を設定した(80%) ○「学校生活満足群」に属する生徒が1回目60%・2回目65%(全国35%) ○「学校生活不満足群」に属する生徒が1回目15%・2回目12%(全国35%) (教)Q-Uを活用した学級経営に努めている(75%) (教)Q-Uの研究方法は適切であった(85%) Q-U等の諸検査を活用し、学校不응出さぬ努力、早期対応を日常的に行なった(80%)		
					○「体験することができる」を取り入れた短学活の有効活用 ○JRC活動でのボランティア体験 ・校内、校外ボランティアの活用 ○心・技・体を取り入れた部活動の強化 ○縦割り活動推進係 ○JRC活動推進係 ○特別活動・短学活・学級生徒会活性化係 ○QUによる検証係	・短学活の活動を通して、生徒一人一人の「分かる」「できる」が増える。 ・ボランティア活動に自主的に参加できる。 ・心技体を鍛えることができる。 ・部活動開始時間を終学活10分以内に行うことができる。	(生)私は、校内ボランティア(募金活動、緑化活動、ちょボラなど)に自主的に参加している。(70%) (教)JRC活動は充実している(75%) (教)部活動を通して、生徒の心技体を鍛えようと努めた(85%) (生)私は、部活動の苦しい場面や大変な場面でも諦めず頑張っている。(85%)		
					○短学活を利用したコミュニケーション能力の育成 ○縦割り活動の場面での実践 ○日々のソーシャルスキルトレーニング ・自然な話かけができる。 ・折り合いをつける話し合いができる。 ○縦割り活動推進係 ○特別活動・短学活・学級生徒会活性化係 ○部活動・部長会・中体連 調整係	・その場に適切なあいさつや反応をすることができる。 ・誰とでも自分らしく接することができる。	(教)朝学活、終学活では、ふれあいを取り入れるという視点から効果的に行うための工夫をしている(80%) (教)縦割りの活動は仲間づくりに有効である(80%) (生)私は、縦割りの活動を通して、思いやり、感謝の心、礼儀などを意識している。(85%)		
